

市第1号議案関連資料

基本計画特別委員会  
GREEN×EXPOみどり分科会  
令和8年5月29日  
みどり環境局

## 横浜市中期計画2026-2029（原案）

みどり環境局抜き刷り版



# 議決範囲の考え方

横浜市中期計画2026～2029の議案については、原案のうち「現状と課題」や「目指す姿」等をまとめており、本資料では該当部分を黒い点線で囲んでいます。

## 01 毎日の安心・安全

現状と課題

- 都市計画の推進
  - ・都市計画の推進は重要となるが、都市計画は可決した段階で完了してはならず、着々と実施を進める必要がある。また、都市計画の推進は、都市計画の推進と併せて、都市計画の推進を進める必要がある。また、都市計画の推進は、都市計画の推進と併せて、都市計画の推進を進める必要がある。
- 交通安全の確保
  - ・交通安全の確保は重要となるが、交通安全の確保は、交通安全の確保と併せて、交通安全の確保を進める必要がある。また、交通安全の確保は、交通安全の確保と併せて、交通安全の確保を進める必要がある。
- 防災・防災対策
  - ・防災・防災対策は重要となるが、防災・防災対策は、防災・防災対策と併せて、防災・防災対策を進める必要がある。また、防災・防災対策は、防災・防災対策と併せて、防災・防災対策を進める必要がある。
- インフラ整備の推進
  - ・インフラ整備の推進は重要となるが、インフラ整備の推進は、インフラ整備の推進と併せて、インフラ整備の推進を進める必要がある。また、インフラ整備の推進は、インフラ整備の推進と併せて、インフラ整備の推進を進める必要がある。

目指す姿

【現状】 毎日の安心・安全に満足している市民は66.8%

【目指す姿】 毎日の安心・安全に満足している市民は78.0%

## 政策群

### 1 防犯、歩行者の安心・安全

防犯、歩行者の安心・安全に関する施策の推進

防犯、歩行者の安心・安全に関する施策の推進

### 2 インフラ施設の安全確保

インフラ施設の安全確保に関する施策の推進

インフラ施設の安全確保に関する施策の推進

## 01 循環型都市への移行

現状と課題

2029（令和11）年の横浜の姿（循環型都市）

2040（令和22）年の横浜の姿（循環型都市）

## 方向性

循環型都市移行の必要性

横浜の強み・特性

大規模、多様性、市民参加

循環型都市への移行による社会的インパクト大

地権者層に応じた多様なアプローチを試行可能

市民・企業・行政一斉の取組を展開可能

# 目次

## 政策・施策

- 14の政策群と33の施策群  
政策群13 環境との共生－4（冊子51）頁  
政策群14 みどり－6（冊子53）頁
- 明日をひらく都市プロジェクト  
テーマ01 循環型都市への移行－12（冊子73）頁

参考資料 素案からの主な変更点－16頁

## 13 環境との共生



現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

### ○カーボンニュートラル※1の推進

- ・2030（令和12）年度の温室効果ガス2013（平成25）年度比50パーセント減、2050（令和32）年のカーボンニュートラル達成に向けた取組が進み、2023（令和5）年度の市域の温室効果ガス排出量（速報値）は、1,615万トン-CO<sub>2</sub>で、2013（平成25）年度比25パーセント減と減少傾向にあります。
- ・目標の達成に向けて、市民・事業者の皆様の行動変容、脱炭素イノベーション、市役所の率先行動の更なる推進が重要です。

### ○横浜グリーンエキスポを契機とした環共コンセプトの発信

- ・長年にわたり基地として使用されてきた上瀬谷地区の平和利用の象徴として、横浜グリーンエキスポを開催します。
- ・横浜グリーンエキスポの開催を契機に、新たなグリーン社会の在り方が広く市民の皆様に浸透し、会期終了後の具体的な環境行動につなげていくことが重要です。

### ○横浜らしいサーキュラーエコノミー（循環経済）※2の構築・推進

- ・限られた資源を最大限有効に活用し経済的な発展にもつなげるサーキュラーエコノミーに関する機運が国内外で高まっています。
- ・横浜の特性である「大規模」、「多様性」、「市民意識」を生かした施策を進め、国内外における循環型社会への転換を加速していくことが重要です。

目指す姿 - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

- ・様々な脱炭素関連施策の展開により、市民・企業の環境意識の高まりを通じて脱炭素の取組が推進され、ハーフカーボンの達成が確実なものとなっています。
- ・横浜グリーンエキスポの取組を通じて、ネイチャーベースドソリューション※3やサーキュラーエコノミーの考え方が浸透し、市民や事業者の皆様の行動変容につながるなど、新たなグリーン社会の実現に向けた具体的な環境行動が広がっています。
- ・横浜らしいサーキュラーエコノミー施策が展開された結果、環境への影響を考慮して行動する市民が増えているとともに、市内産業の発展・育成につながっています。また、アジアを代表するグリーンシティとして、世界の環境政策、都市政策を先導しています。

政策指標 - 市民の皆様が横浜市での暮らしの意識を表す指標 -

以前より環境に配慮した行動をするようになったと思えますが

71.6%



カーボンニュートラルの推進に向けた取組、循環型社会に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

横浜市環境管理計画

横浜市地球温暖化対策実行計画

ヨコハマ プラ5.3計画

### 【関連するSDGsの取組】



※1 カーボンニュートラル：二酸化炭素などの温室効果ガスの人為的な発生源（事業活動や日常生活）による排出量と、建設資材等の原材料への二酸化炭素の再利用や森林吸収率による除去量とが均衡した、温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す。

※2 サーキュラーエコノミー（循環経済）：シェアや修理、リサイクルなどの取組を通じて資源を循環させ、新たな資源やエネルギーの投入を減少させていく経済モデル。詳細は明日をひらく都市プロジェクト「循環型都市への移行」（73ページ）参照。

※3 ネイチャーベースドソリューション：自然を活用した解決策（NBS：Nature-based Solutions）。健全な自然生態系が有する機能を生かして社会課題の解決を図ること。

## 施策群

施策指標 - 2029（令和11）年度に向けて進捗管理し、成果発揮を目指す指標 - を設定

### 28 カーボンニュートラル

方向性 地球温暖化が深刻化する中、持続可能な社会を実現していくため、温室効果ガスの2030（令和12）年度50%削減（2013（平成25）年度比）や、その先の2050（令和32）年のカーボンニュートラルに向け、市民や企業の皆様など、様々な主体と連携しながら、「市民の行動変容」、「事業者の行動変容」、「脱炭素イノベーション」、「市役所の率先行動」の4本柱の取組を推進します。

指標	脱炭素の取組進捗率 (環境クレジット制度※1への参加) 【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	現状 34%	目標 100%	脱炭素の取組進捗率(市役所) 【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	現状 41%	目標 74%
	みなとみらい地区の再エネ導入率 【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	現状 40%	目標 65%			

### 29 横浜グリーンエキスポ

方向性 「市民の皆様と作り上げる環境との共生」をテーマとした横浜グリーンエキスポの開催を通じ、市民の皆様をはじめ、国内外の多くの方々と気候変動や生物多様性の損失等の地球規模の課題を共有し、解決につながる行動を起こします。さらに、新たなグリーン社会の実現に向け、一人ひとりの具体的な環境行動を自然と共にある横浜の都市づくりにつなげていきます。

指標	環境にやさしい行動に取り組んでいると答えた市民の割合 【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	現状 76.2%	目標 76.2%以上	シェアリングエコノミー※2に参加していると答えた市民の割合 【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	現状 16.6%	目標 25%以上
	環境活動に取り組んでいる団体数 【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	現状 4,068団体	目標 4,100団体			

### 30 循環型社会に向けた取組

方向性 市民の皆様消費活動や企業の経済活動における意識や行動の変容による、再資源化※3の促進、積極的なシェアリングサービスの利用、さらには、公共建築物における率先的な取組や空家対策、循環型まちづくりを通じて、横浜らしい循環型都市への移行を推進します。また、循環型社会への移行が国際的な潮流となっている中、これらの取組を広く世界へ発信し、国際プレゼンスの向上につなげていきます。

指標	循環型サプライチェーン※4の創出数 【経済局】	現状 -	目標 16件	サーキュラーエコノミーに関する事業への参加人数 【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	現状 18,000人	目標 61,000人
	企業マッチング等による投入資源削減量※5 【資源循環局】	現状 -	目標 8,000t	資源化等による食品廃棄物削減量【みどり環境局】	現状 -	目標 870t
	公共建築物のサーキュラー設計数 【建築局】	現状 -	目標 90件			

### 【関連データ等】

#### ●温室効果ガス排出量



#### ●横浜グリーンエキスポ 会場イメージ



※1 環境クレジット制度：企業が温室効果ガス削減量を取引できる制度

※2 シェアリングエコノミー：消費者庁の「あんぜん・あんしんシェアリングエコノミー利用ガイドブック」によると、インターネットを介して個人と個人・企業等との間で活用可能な資産（場所・モノ・スキル等）をシェア（売買・貸し借り等）することで生まれる新しい経済の形

※3 再資源化：ごみとして排出された廃棄物（プラスチック、紙、建設廃棄物など）を、そのまま処分せず、新たな製品の原材料やエネルギー源として再利用できる状態に加工する活動

※4 循環型サプライチェーン：従来の一方通行のサプライチェーン（原材料の調達から製造、物流、販売を経て消費者に届くまでの流れ）とは異なり、原材料や製品を廃棄せず、に、再利用、修理、再製造、リサイクルを通じて循環させる持続可能な供給網

※5 投入資源削減量：焼却や埋立処理していたものを、リユースやリサイクル等により循環させることで、製品に新たに投入する資源を削減した量

# 政策群

## 14 みどり



### 現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

#### ○公園・動物園の魅力向上

- ・都市公園の数や面積は周辺自治体と比べて非常に多く、身近な公園以外にも多様な公園があります。また、基礎自治体で唯一、3つの動物園を有しています。
- ・子どもの多様な体験の場として、公園のリニューアルや、3つの動物園それぞれの個性を生かした魅力向上が重要です。

#### ○市民が実感できる都市農業

- ・横浜は大都市でありながら、農業産出額県内第1位となるなど活発な都市農業が行われています。
- ・収穫体験や地産地消の取組など、市民の皆様が農に触れる機会の創出を通じて、横浜の暮らしの魅力発信するとともに、農を生かした資源循環の取組を進めていくことも重要です。

#### ○身近なみどりの保全と創出

- ・横浜は大都市でありながら、郊外部を中心に大規模で魅力的なみどり空間を有しています。一方で、都心部においてはみどりの効果や魅力を市民の皆様が実感しづらい現状があります。民有地も含めた緑化を推進し、都市環境の改善や景観の向上につなげることが重要です。
- ・シンボリックなみどりの創出を通じて、まちの魅力向上や都市のにぎわいにつなげることも重要です。

### 目指す姿 - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

- ・「公園のまちココハマ」の推進や動物園のリニューアルによる魅力向上を進めることで、子どもを中心に多様な体験の場が創出されるとともに、都市ブランド力の向上につながっています。
- ・身近に農を実感できる機会が増えることにより、市民の皆様の豊かで潤いのある暮らしが実現しています。また、循環肥料の市内農地での活用など、都市と農地が近接している横浜の特徴を生かした取組が進められています。
- ・大気や水、土壌などの生活環境の保全に加え、樹林地や河川、海などの自然環境が保全されるとともに、市街地でのみどりの創出が進み、市民の皆様が水辺やみどりを身近に感じられています。

### 政策指標 - 市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標 -

身近な自然環境が充実している  
まちだと思いますか

68.8%

みどりや公園・動物園の魅力向上、都市農業や農体験に関する個別分野別計画等

- 横浜市環境管理計画
- 横浜市水と緑の基本計画
- 横浜市都市農業推進プラン
- 横浜みどりアップ計画



【関連するSDGsの取組】



## 施策群

施策指標 - 2029（令和11）年度に向けて進捗管理し、成果発揮を目指す指標 - を設定

### 31 公園・動物園

方向性

市民の皆様にとって身近な公園で誰もが安心・安全・快適に過ごせるよう、「やさしい公園づくり」や柔軟な運営による公園の一層の活用を進めるとともに、**プレイパークをはじめとする子どもの体験活動の機会を拡充**します。また、都市の中で自然や生き物に触れる場である動物園を3つ持つ都市として、それぞれの園の特性を伸ばし、体験価値を高めます。

指標

公園等での子どもの体験機会の創出数 【みどり環境局】 現状 34箇所 目標 80箇所  
市民の動物園に関する満足度 【みどり環境局】 現状 78.9% 目標 維持・増加 78.9%以上

### 32 都市農業

方向性

都市と農地が近接している横浜の特徴を生かし、市民の皆様が市内産農畜産物の消費や収穫体験等を通じて、横浜の暮らしの多様性を実感できる機会を創出するとともに、豊かな農のブランディングにより、都市の魅力向上へとつなげます。あわせて、市内産農畜産物が安定して供給されるよう、その基盤となる営農環境を整備・支援します。

指標

農に親しむ機会があると答えた市民の割合 【みどり環境局】 現状 23.5% 目標 33%以上  
市内産農畜産物直売所利用者数 【みどり環境局】 現状 1,520千人 目標 1,540千人

### 33 みどりの保全と創出

方向性

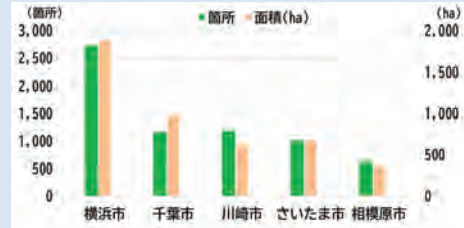
みどりが持つ多面的な機能を最大限発揮することにより、良好な都市環境を生み出すため、郊外部に残された樹林地の保全を進めるとともに、都心臨海部においては、再整備する大通り公園をはじめとした、市民や来街者の皆様が魅力を実感できる新たなみどり空間を創出するとともに、回遊性を向上することで、まちの魅力を更に高めます。

指標

よこはまのみどりを魅力的と感じる市民の割合 【みどり環境局】 現状 76.5% 目標 維持・増加 76.5%以上  
森に親しむ機会の創出数 【みどり環境局】 現状 115回/年 目標 125回/年  
都心臨海部の新たな魅力あるみどり空間の創出数 【みどり環境局】 現状 0箇所 目標 3箇所  
樹林地の保全面積 【みどり環境局】 現状 1132.1ha 目標 36ha/年

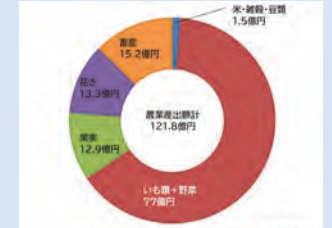
#### 【関連データ等】

●周辺の政令指定都市の公園の数と総面積(2024年3月時点)



【出典】みどり環境局

●横浜市の推計農業産出額(2023年)



【出典】みどり環境局

●野毛山動物園リニューアル



【出典】みどり環境局

●森に親しむ機会の創出(市内大学と連携したイベントの実施)



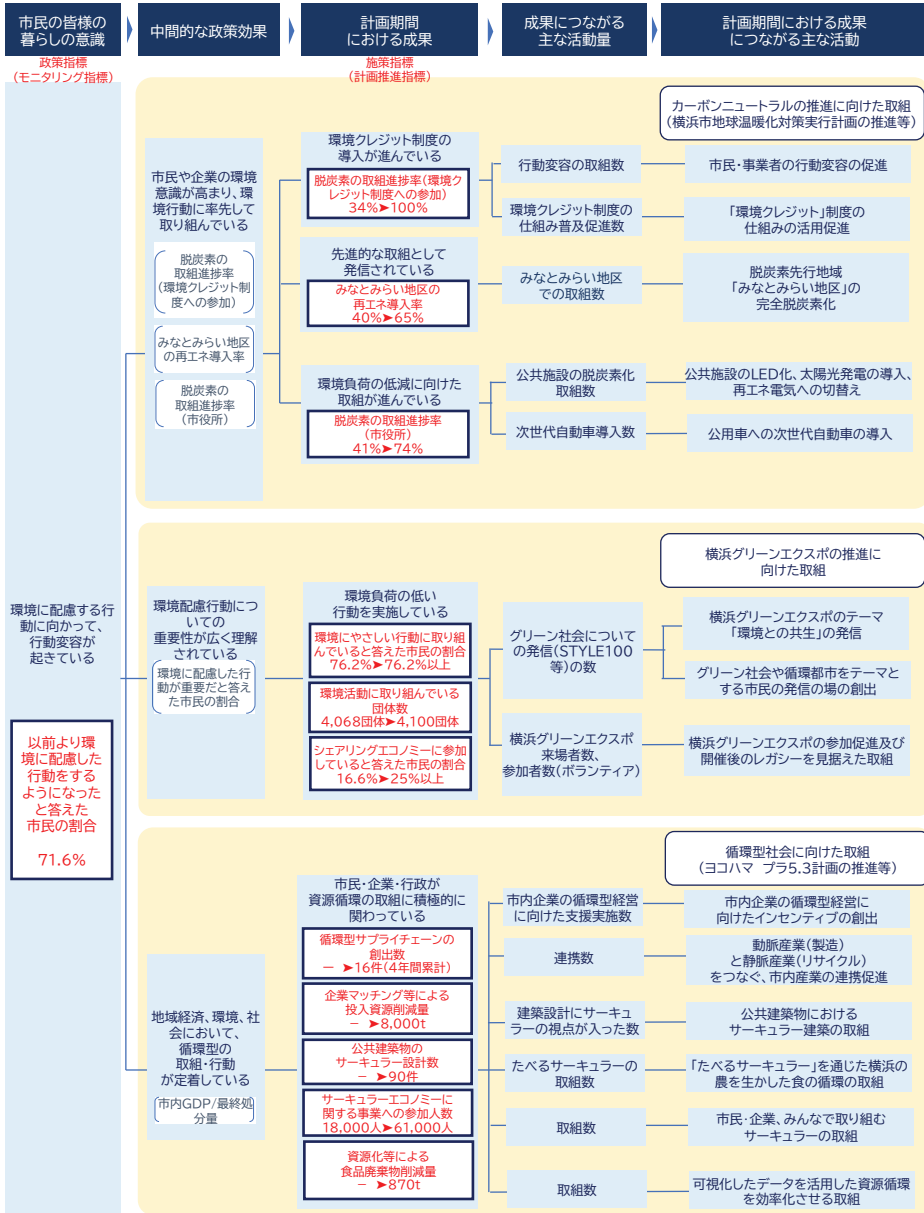
【出典】みどり環境局

●商業施設での農体験



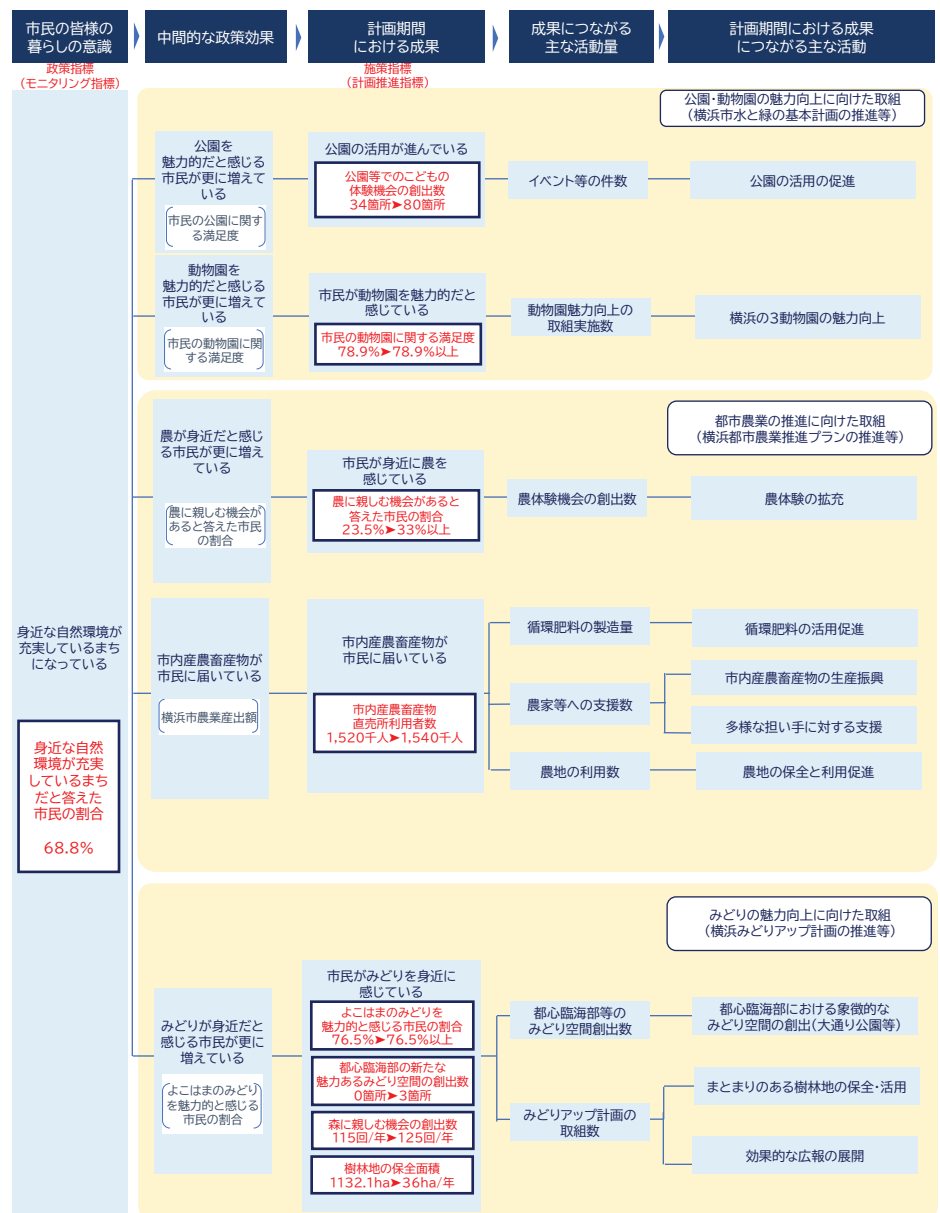
【出典】みどり環境局

## 政策群：環境との共生



※ 中間的な政策効果は、市民の皆様が暮らしの意識を表す指標の向上に向けた経路の思考・確認の一例を掲載  
本計画に記載以外の中間的な政策効果も含め、個別分野別計画の取組と連動させ、状態を確認・検証しながら柔軟に実践  
※ 取組に記載している個別分野別計画はR8.5時点

## 政策群：みどり



※ 中間的な政策効果は、市民の皆様が暮らしの意識を表す指標の向上に向けた経路の思考・確認の一例を掲載  
本計画に記載以外の中間的な政策効果も含め、個別分野別計画の取組と連動させ、状態を確認・検証しながら柔軟に実践  
※ 取組に記載している個別分野別計画はR8.5時点

## 2 明日をひらく都市プロジェクト

---

## 01 循環型都市への移行

環境・経済の両面から持続可能な都市を実現するため、サーキュラーエコノミー（循環経済）の取組を進めます。サーキュラーエコノミーは、資源やエネルギーの循環利用により環境負荷を減らし、カーボンニュートラルの実現にも貢献します。また、新たなサービスや技術を生み出し、経済の活性化にもつながります。

横浜ならではの都市の特性を生かした「横浜らしいサーキュラーエコノミー」の取組を推進し、持続可能な循環型都市を目指すとともに、この取組を横浜グリーンエクスポ等を通じて世界に発信します。

### 現状及び将来見通し

#### サーキュラーエコノミー(循環経済)とは

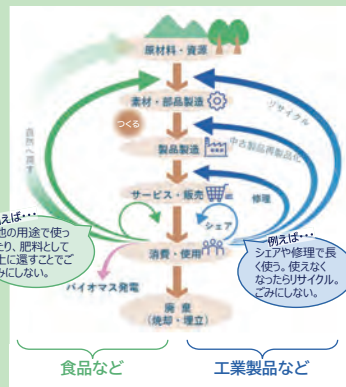
サーキュラーエコノミーは、従来の「資源採取→生産→消費→廃棄」という直線的な経済（リニアエコノミー）に対して、シェアや修理、リサイクルなどの取組を通じて資源を循環させ、新たな資源やエネルギーの投入を減少させていく経済モデルです。

気候変動や天然資源の枯渇、環境の汚染など、地球の持続可能性が世界的な問題となっています。かけがえのない地球環境を守るためにも、欧州をはじめ世界的な潮流となっているサーキュラーエコノミーの取組を進めていくことが重要です。

#### リニアエコノミー



#### サーキュラーエコノミー



#### 2029（令和11）年の横浜の姿（循環型都市）

- ◆取組全体  
「経済成長」と「ごみ排出量削減」の両立（デカップリング）の推進
- ◆個別取組（施策群の指標：抜粋）
  - ・資源化等による食品廃棄物削減量 【現状】 → **870t**
  - ・企業マッチング等による投入資源削減量 【現状】 → **8,000t**
  - ・公共建築物のサーキュラー設計数 【現状】 → **90件**
  - ・循環型サプライチェーンの創出数 【現状】 → **16件**（4年間累計）
  - ・サーキュラーエコノミーに関する事業への参加人数 【現状】 19,000人 → **61,000人**（R6時点）

#### 2040（令和22）年の横浜の姿（循環型都市）

- 【経済】の視点  
サーキュラーエコノミーが横浜の新たな**成長産業**となっています。
- 【グローバル】の視点  
可視化されたサーキュラリティ指標のもと、地球環境と調和した持続可能な都市として、**国内外のモデル**となっています。
- 【市民】の視点  
「次世代も横浜に住んでほしい」と感じる市民が増加しています。

### 方向性

#### 循環型都市移行の必要性

##### 環境

- ・廃棄物の更なる削減
- ・気候変動への対応加速

##### 経済

- ・地域経済の成長・発展（成長分野育成、市内産業活性化）
- ・国際的な認知向上・投資促進

#### 横浜の強み・特性（令和7年9月時点）

##### 大規模

“日本最大”の消費地  
最大の基礎自治体



循環型都市への移行による社会的インパクト大

##### 多様性

都市環境の縮図  
住宅地、港、農など多彩な環境



地域環境に応じた多様なアプローチを試行可能

##### 市民意識

ハマッコの市民力  
活発な活動と行政との連携実績



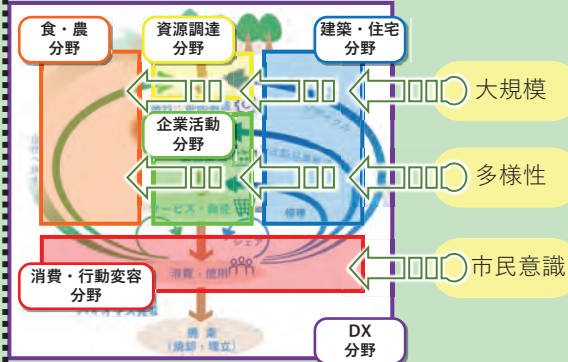
市民・企業・行政一体の取組を展開可能

#### 「横浜らしい」循環型都市へ

活発な都市農業を生かした「食・農」、建物棟数など豊富なストックを生かした「建築・住宅」を中心に、「資源調達」、「企業への成長インセンティブ」を通じて、生産・流通過程でも循環型への移行を進めます。

また、「消費・行動変容」につながる身近な取組を展開するとともに、「DX」を推進し、取組効果の可視化や改善につなげます。

さらに、これらの取組を広く世界へ発信し、国際プレゼンスの向上につなげます。



### 「たべる」サーキュラー

#### 横浜の「農」を生かした食の循環

- 家庭から出る食品廃棄物を堆肥化し、地域などで活用します。
- 農作業から出る葉や茎などの残さの活用や、小売店・飲食店など事業活動から出る食品廃棄物のリサイクルを推進します。
- 下水処理で取り出した「再生リン」入り肥料の活用を進めます。



### 「つなぐ」サーキュラー

#### 動静脈連携により、再生資源の更なる活用を目指す

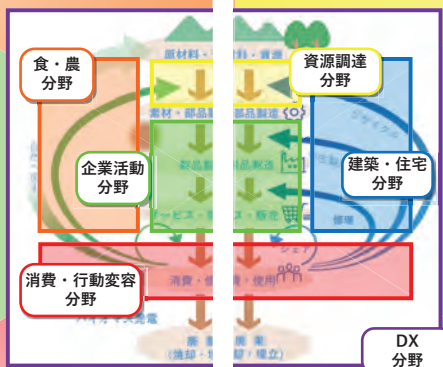
- 製品の製造などを行う「動脈産業」と、再資源化などを行う「静脈産業」との動静脈連携により、家庭や事業者から発生する廃棄物の質の高いリサイクルと活用を進めます。
- 「横浜市資源循環推進プラットフォーム」等を通じて、動脈産業と静脈産業のビジネスマッチングや技術開発などを支援します。



### 「つくる」サーキュラー

#### 社会情勢変化を経済成長のきっかけにつなげる

- サーキュラー産業の誘致・集積・エンパワーなど、循環型ビジネスへの重点的なインセンティブの創出を行います。
- 市内企業がサーキュラーエコノミーに対応した経営へ向かうための支援など、「つくる」分野における循環経済の取組をサポートします。



### 「くらす」サーキュラー

#### 資源の宝庫である「建物」のサーキュラー化

- 公共建築では、既存施設の活用、再利用しやすい設計、廃材の有効活用によって廃棄物を減らす「サーキュラー建築」のモデルを横浜から発信します。
- 日本一のストック量を誇る住宅分野では、リノベーションによる既存ストックの流通・活用を進めます。



### 「とりくむ」サーキュラー

#### 身近な取組から未来を変えていく

- 航空燃料（SAF）に活用するための家庭系廃食油の回収や、不要な衣類を回収し再び繊維として活用する「服to服」など、生活に身近なチャレンジしやすい取組を展開します。
- 市庁舎での率先的な取組や、大規模イベント等を通じた来街者も参加できる取組、こどもや地域によるサーキュラー活動の発信などを通じ、幅広い層に対し、循環型のライフスタイルを促進します。



### 「みえる」サーキュラー

#### 物質循環の流れを「見える化」

- みなとみらい地区において、エリア単位で物質循環の流れを可視化する手法を開発・発信します。
- 可視化されたデータを活用して、地域の資源循環率の向上に寄与する施策を進め、他地区への展開につながる事例を創出していきます。



サーキュラーエコノミーが国際的な潮流となっていく中、これらの

取組を広く世界へ発信し、アジアを代表する循環型都市へ

## 参考資料：素案からの主な変更一覧

素案の公表後、横浜を取り巻く状況の変化やパブリックコメント等を踏まえ、庁内検討が進展した内容を反映し、変更した主な内容は次のとおりです。

頁	変更箇所	変更前（素案）	変更案（原案）
54	IV 政策・施策 1 14の政策群と33の施 策群 政策群14 みどり 施策群31 公園・動物園  方向性	市民の皆様にとって身近な公園で誰もが安心・安全・ 快適に過ごせるよう、「やさしい公園づくり」や柔軟な運 営による公園の一層の活用を進めると共に、こどもの 体験活動の機会を創出します。	市民の皆様にとって身近な公園で誰もが安心・安全・ 快適に過ごせるよう、「やさしい公園づくり」や柔軟な 運営による公園の一層の活用を進めるとともに、 <b>プレ イパークをはじめとするこどもの体験活動の機会を拡 充</b> します。
54	IV 政策・施策 1 14の政策群と33の施 策群 政策群14 みどり 施策群31 公園・動物園  指標	市民の動物園に関する満足度 現状 調査中 目標 -	現状 <b>78.9%</b> 目標 <b>維持・増加78.9%以上</b>
54	IV 政策・施策 1 14の政策群と33の施 策群 政策群14 みどり 施策群32 都市農業  指標	農に親しむ機会があると答えた市民の割合 現状 調査中 目標 -	現状 <b>23.5%</b> 目標 <b>33%以上</b>
54	IV 政策・施策 1 14の政策群と33の施 策群 政策群14 みどり 施策群33 みどりの保全 と創出  指標	よこはまのみどりを魅力的と感じる市民の割合 現状 調査中 目標 -	現状 <b>76.5%</b> 目標 <b>維持・増加76.5%以上</b>
56~69	IV 政策・施策 1 14の政策群と33の施 策群 政策一施策体系図	-	各政策群の体系図に政策指標、施策指標の数値を追 記